

武蔵野市第四期基本構想・長期計画策定委員会（第24回）会議要録

日 時 平成16年8月20日（金） 午前10時～12時

場 所 市役所6階601会議室

出席者 東原委員長・小木副委員長・鵜川委員・廣瀬委員
増山委員・村田委員・古田土委員・永並委員
企画政策室長・企画調整課長・財政課長ほか

1．開会

資料確認

2．議事

（1）市民ヒアリング検討事項について

【委員長】市民ヒアリングの検討事項を確認する。市民ヒアリングでのやり取り（食に関する教育の充実）で、「今後、更に良い考えがあれば取り入れていきたい」という発言があったが、これはどうなったか。

【委員】対応している。

【委員長】同様に中学校昼食の実態と図書館については。

【委員】共に、現在の文章にとどめておくべきだ。

【委員長】西部図書館に関する私の発言については、担当課に現状と、現在の来館者にどういう対応ができるかヒアリングをしたい。

【委員長】パートナーシップについては。

【委員】新しい記述を加えた。

【委員長】障害児対策で、「できる範囲で少しずつ検討していきたい」としたが。

【委員】「できる範囲で少しずつ」というのは、財政面など大きな問題につながる部分もあるので慎重な表現をした。

【委員長】吉祥寺のまちづくりについては、グランドデザインを策定するので、意識的に記述を減らした。

（2）計画案修正について

【委員】コミュニティの部分について、一部文章を削った。

【委員長】「市民パートナーシップ」は、原理的な部分なので削除するなら議論が必要だ。

【委員】重複する部分を削った。

【委員長】市民パートナーシップという考え方については、残したい。また、追加した文章中の「新たな価値」とは、どのようなイメージか。

【委員】新しい連帯の中で生まれるコミュニティをイメージしている。多様で異質な人々を構成員として受け入れ、かつプラスアルファの機能を発揮する。

【委員長】機能とは、「連帯」によって、問題を自分たちで解決する機能と考えて良いか。

【委員】その通りだ。

【委員長】この部分は後ほど議論したい。次に、男女の「家族的責任」。「家族」というキーワードを残したい。

【委員】結構だ。

【委員長】「家族に対する男女の責任」が良い。

【委員】了解した。

【委員長】次は、学校教育について。趣旨は「身体・言語・自然」というキーワードを使うなら、今後、「身体」に関する施策を考える際は、「身体・言語・自然」に照らして「身体」を考えていく。その他二つについても同様だ。そういった意味で、「深い相互関係に注意を払った」という文言を入れた。今後の市の施策はこういう考え方で提案してもらいたい。また、日本の古典教育、英語教育を加えたが、異文化理解の典型例として英語教育をあげた。学校の部活動については、部活動指導者の配置よりも、もっと広いものが出てくるはずなので、書き方に注意した方が良い。次の給食、桜堤調理場については、「対応策を広く取って検討する」を「広く検討する」に替えるべきだ。次に、中学校給食について。

【委員】ヒアリングでの検討事項に対応した箇所だが、「弁当については、夏季の安全面にも配慮し、参考メニューを提供するなど可能な支援策を研究する。」とした。

【委員長】次に、国際交流・協力について。

【委員】「国際語としての英語能力の習得と向上及び生きた人間同士の心に触れる交流を施策として進めていく」といった内容を書きたい。

【委員長】交流事業は、教育的な成果をねらっているのは明らかなので、教育でも記述しておきたい。また、国際交流事業の意義を長期計画で位置づけておく必要がある。

【委員】国際的な相互依存が深まる中で活躍し得る言語的能力や、外国の文化理解能力を若いときから身につけさせるという点と、教育論的に一歩進めて、人間の能力を多面的に開花させる場を、外国体験という形で提供していくという点をここに書き込むべきかもしれない。文化的な交流を深めるところを重視してこれを維持、拡張していくという話にとどめるのか、もう一歩踏み込んだ記述にすべきか。

【委員長】体験教育の一環だ。「身体・言語・自然」にも対応していると思う。

【委員】体験教育の一環として国際的な交流事業をより進めるということか。

【委員長】国際交流の教育的な効果にかんがみて、教育においても柱として明確に位置づけるということだ。「身体・言語・自然」の流れで国際交流を教育として位置づけ、事業運営については厳格に行うべきだという感じではどうか。

【委員】その通りだ。

【委員長】以上で計画案に対する修正は終わったので、最初に戻ることとする。

【委員】コミュニティについて、最後の「このことは市民パートナーシップという考え方が本市のコミュニティ構想の発展という側面を有していることを示している」を復活させたい。

【委員長】「市民パートナーシップ」は、本市コミュニティ構想の発展として持ってきたので、この言葉は残しておきたい。また、「価値観の多様」について触れているが、問題は、コミュニティが連帯の力を使って自らの問題、課題を発見し、解決していくという能動的な能力だ。「多様性」がキーワードではなく、「自ら課題解決する」ということがコミュニティのキーワードだと思う。

【委員】重要な指摘だ。

【委員長】キーワードとして「連帯」を言うのは良いと思う。つまり、何か方向性を持つ高度な連帯だ。「多様、異質」というのはキーワードでなく、連帯と課題解決がキーワードだと思う。次に、長期計画で書いたものが具体的にどう反映されていくかということについては、20年前から常に問題としてきた。長期計画に幾らきれいごとを書いても、実際に市民サービスに反映されないと意味が無い。今回、サービスの質というような問題を議論してきているが、最終的に市民に届くサービスを重視すべきだという文言を1～2行入れたい。

【委員長】次に、先ほどの国際交流について。

【委員】「総合的能力を養うため、「身体・言語・自然」を重視する教育の一環として、青少年の国際的文化・交流教育を進める。」とするとともに「これまでの事業のあり方を精査するとともに」を加え、「土曜学校の世界を知る会などにおける国際交流、体験事業の充実のほか、新しい視点での国際交流教育を進めていく。」とした。

【委員長】海外派遣事業については、「これまでの事業運営のあり方等を見直した上で進める」との記述が必要だ。また、体験として多様なメリットがあるので、「「身体・言語・自然」を重視する教育の一環として、青少年の国際的文化・交流教育を進める」という記述があれば良い。生徒が外国に行った経験の中で、どういう部分が一番効果が大きいかと考えるか。

【委員】平和のための共存、相互依存ということを実感できる点が一番だ。

【委員長】「身体・言語・自然」を重視する教育として、外国派遣は生身の人間とふれあうという意味で独特なものがあるので、その意義は高く掲げて良いの

ではないか。

【委員】同感だ。

【委員】最後のところで、職業観とか勤労観の問題が、学校の教育、勤労教育の推進で触れられている。「児童・生徒の発達段階に応じて職業観や勤労観を身につけ」というと、少し狭いので、「それぞれの多様な才能などを育てるとともに、広い意味での職業観や健全な勤労観」としたが。

【委員長】自発性とかそれを重視するというニュアンスは盛り込んできたので、その方向で良い。その他の詳細については、委員長に一任とさせていただきたい。

【委員】了解した。

【委員長】それでは、本日をもって策定委員会を終了とする。なお、市長への答申は、9月13日とする。